

染井野三丁目町内会だより

第126号



2019年 12月8日 発行

町内会ホムパース

<http://sakura-someino.com/3chome/>

民生委員便り

～自助・共助・公助の連携が重要です～

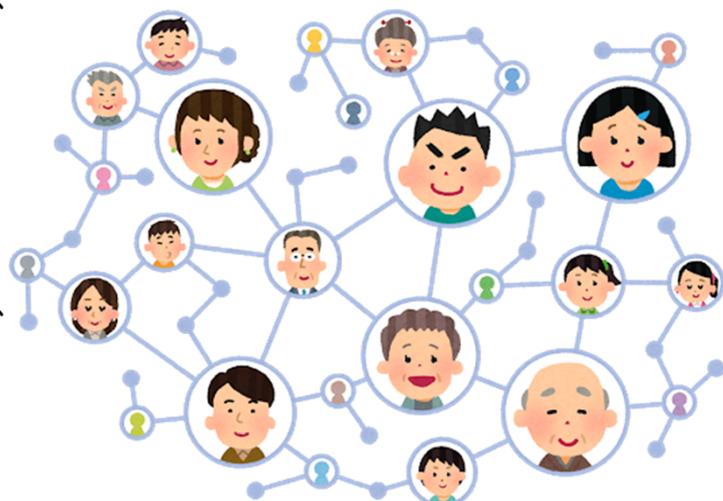
先般の台風19号で、幸いなことに染井野3丁目においては甚大な被害はありませんでしたが、飯重や羽鳥では橋が冠水したところがあり、屋根が吹き飛ばされたところもあったようです。台風や地震など自然災害に見舞われた時、出来るだけ混乱を避け、被害を最小限に食い止めることが必要です。

被害を最小限に食い止めるためには、自助、共助、公助による連携が重要です。何といたっても自助、自分の身は自分で守るのが基本です。自助の努力で安全な場所に避難することが望ましいのですが、在宅避難がより望ましいと判断する場合があります。また、常日頃2週間分の水と食料を蓄えておくべきだと言われています。

佐倉市では自ら避難することが困難な方を支援する目的で、「避難行動要支援者名簿」が作成されています。その名簿は、個人情報保護の観点から民生委員にしかオープンにされていませんが、実際のところ、いざという時に民生委員一人では何も出来ません。自治会の皆様のご協力が必要不可欠です。そこで本人のご了承を得られた方については、自治会長と相談しまして、自治会長、ブロック長及び民生委員で協力し合って、名簿に登録されている方の避難を支援することに決定しています。その名簿に載せようかとお考えなら、この機会に是非早めに市役所・社会福祉課にご連絡下さい。

共助、即ちお互い助け合うということでは、常日頃のお付き合いが必要です。私たちのブロックA班では2年に3回ほど食事会を開催しています。子供たちが成長して近所といっても、挨拶くらいのお付き合いになってしまっていたのですが、食事会を開催するようになってから、またいろいろ情報交換するようになりました。向こう三軒両隣とよく言いますが、日頃その付き合いがあれば、いざという時に助け合えるのではないかと思います。

自治会では自然災害からの被害を最小限に食い止めるための組織やシステムを鋭意検討されていて心強い限りです。お互いみんなで助け合っていきたいものです。



染井野3丁目担当民生児童委員 堀秀行

戸別配布された町内会だよりをご覧ください

防災本部会より

近い将来に起こりうる大地震等に対する、有事・平時における体制を整え必要最小限の活動が可能となるよう、自主防災会会則の改正を検討しています

マグニチュード7.3の大地震が、この30年以内に70%の確率で首都圏を襲う見込みであり、佐倉市でも震度6弱の揺れに見舞われると想定されています。こうした有事の事態に対する町内会としての備えが、整っているとは言えません。現町内会役員としては、以下のような課題認識を持っているところです。

- ① 有事に対応するには一定のマンパワーが必要ですが、現行の自主防災会会則に規定されている防災役員数は、ブロック長人数の12名のみです。また本年度の場合、役員の半数はフルタイムで勤務していますので、平日日中に有事が発生してしまうと、必要なマンパワーを確保できない恐れがあります。
 - ② 有事発生の場合には、染井野小学校等が指定避難所となり、支援物資や安否情報等がそこに集められることから、自主防災会としての拠点を確保することが必要です。加えて、在宅避難をされる世帯のために、三丁目町内にも、活動拠点を設置することが必要です。
 - ③ 自主防災会が平常時と災害時に担うべき役割は、継続的に見直される必要があります。
- ※ これらを勘案すると、防災役員の人数を、現行規定に定める12名から増員することが必須であると考えています。

※：わたしたち現町内会役員としては、「防災に強いまちづくり」へ踏み出すべく、リタイアされ元気でいらっしゃる高齢者等の有志ボランティア（公募）役員と、隣近所に明るい班長の皆様とに、有事の際の支援をお願いすることを盛り込んだ形での、**自主防災会則の改正を検討しています。**

会則改正案について皆様からのご意見を頂戴したうえで、来年4月の町内会総会に諮ります。

主な改正内容は以下の通りです。

※： — 会則改正の概要案については、過日、戸別配布させていただきました —

項目	主な内容
活動拠点を見直します	災害時の拠点 を、三丁目町内(しらかし公園・テント設営)と指定避難所(染井野小学校)の 2か所 にします。
事業を見直します	自主防災会が行うべき 平常時と災害時の役割を見直 します。
防災役員を増員します	現行のブロック長12名に加え、 公募役員(※) を募り、 各種役割(初期消火班、救助班・・・) を担っていただきます。 (※：平時の役員会への出席を不要にする等、負担を軽減します)
防災班長を新設します	前期・後期の班長 さんには、 年間を通じ班内の防災活動を2人で補助 して頂きます。有事の際に所定の役割(安否確認、給食給水補助)を担って頂くとともに、平時においては防災訓練に参加して頂きます。

なお、言うまでもありませんが、有事の際には、ご自分とご家族の安全確保が優先です。上記ご提案の体制は、そうした**安否確認が無事に終わった方から、参集して頂く**ことが大前提です。

☆現町内会役員陣が抱いている危機意識は上述のとおりです。皆様ともこの意識を共有でき、上記改正案が多くの方の賛同をいただけることを願っています。

☆上記のご提案へのご意見(書面)のある方は、お近くのブロック長まで、ご連絡をお願いします。

※：このページは、町内会だより前号(125号)の再掲です。



防災本部会より

「自主防災会」の公募役員を募集します

「自主防災会」は、会則に則り、町内会役員全員の兼務により12名で構成されています。本年度の場合、自主防災会メンバーの半数は都内等でフルタイムで勤務しており、もし平日の日中に大地震等の災害が発生した際には、満足な応急対応ができない恐れが多分にあります。

加えて、町内会役員は1年毎の輪番制でもあり、これらに起因するマンパワーの質的量的不足を補完するには、リタイアされ時間に余裕をお持ちの方、消防や防災関連業種に就かれた経験をお持ちの方々等による中期的なボランティア支援が、是非とも不可欠です。

以上に示したような現状の構造的窮状にご理解頂き、有事に際し共助を支える

「自主防災会」の公募役員を募集致します。来年4月からの体制スタートを予定しています。公募役員として支援して頂ける方には、平時の負担軽減(*)がセットされます。是非手を挙げていただき、一緒にご近所の底力を発揮しようではありませんか。

*：防災訓練のみ参加、月例会議出席不要、関連議事録配布

■公募役員のお仕事：大震災時の応急対応（ご本人・ご家族の無事が前提です）

- ・安否確認や被害についての情報取りまとめ
- ・初期消火活動・救出活動
- ・負傷者の手当て・搬送
- ・住民の避難誘導活動・避難行動要支援者の避難支援
- ・給食・給水活動
- ・避難所運営への関与
- ・在宅避難への支援

◆問い合わせ先 会長
防災部会長

戸別配布された町内会だよりを
ご覧ください

★公募役員にに応じて頂ける方は各ブロック役員まで（第1回申込期限 12月22日(日)）★

各家庭における災害備蓄品等の準備促進（自助）につきまして

9月9日の台風15号の影響で、佐倉市でも停電が発生し寝苦しい夜を余儀なくされたのは、記憶に新しいところです。大地震が発生した場合にも、揺れに伴う家屋の倒壊*や、出火・延焼をはじめ、電気・ガス・上下水道・通信・輸送などライフラインの停止・途絶と、復旧の遅れが想定されます。日頃からの、私たち自身による災害への諸準備（自助）が、とても大切です。

*阪神・淡路大震災時：犠牲者の80%は家屋の倒壊、負傷者の半数は家具の転倒による。

【ポイント】

- 水と食料品の確保：備蓄⇒消費⇒買い足しのサイクルを上手に回し（ローリングストック）常に在庫を保有しておく対策が有用
- 家屋内の家具：転倒防止器具の設置促進
- 家族間の安否確認方法の確立



備蓄品の例示（自宅に被害が無く在宅避難をされる場合）

食料品 (1週間分備蓄)	無洗米、レトルトごはん、即席めん、アルファ米 缶詰、野菜ジュース、チーズ、果物、ビスケット、チョコレート
飲料水(ミネラルウォーター等) (1週間分備蓄)	1人1日3リットルを目安 3リットル×2人×7日=42リットル(2人家族の場合)
生活用水	風呂の水はり、ホリタンク(水道水)、ペットボトル(同左)
燃料	卓上コンロ、固形燃料、ガスボンベ
工具	ロープ、ハール、はさみ、のこぎり、ジャッキ
その他	携帯トイレ(1週間分×家族数)、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、マスク、常備薬、シート、懐中電灯、乾電池、ラジオ、ランタン、体拭き

自主防災会の防災倉庫にも、以下に記す備蓄をしてはありますが、スペースの限界もあり、在庫量を大きく増やすことはできません。各家庭で少なくとも1週間分の食料品・飲料水・携帯トイレ等を備蓄しておくことが、基本だと考えております。ローリングストック手法による自助準備を、よろしくお願いいたします。

アルファ米：100食
飲料水：2リットル 190本
携帯トイレ：300枚

ゴミゼロ運動・町内一斉清掃

今年最後の町内一斉清掃を、下記の日時に実施します。きれいな住宅環境の維持向上のため、皆様のご参加・ご協力をお願いいたします。



日時：12月15日（日）午前9時～10時
場所：しらかし公園を中心に3丁目全域

防災体験バスツアー実施模様

9月28日、「東京有明そなエリア体験見学」に、千葉ビール園での昼食（ジンギスカン）&工場見学を組み合わせた「防災体験バスツアー」が行われました。「そなエリア」では、阪神淡路大震災の被災者であったかたの方から、生の経験に基づいた貴重な情報満載の、有意義な体験見学ができました。

昼食では4人で1つのジンギスカン鍋を囲み、ビール工場見学後の試飲で乾杯・・・皆、笑顔・笑顔の楽しい1日となりました。

最後に、本バスツアー実施にあたり御協力頂きました皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



戸別配布された町内会だよりをご覧ください

防災講演会実施模様

10月19日、千代田染井野ふれあいセンターで、サニーカミヤ先生をお招きした防災講演会が開催されました。

一戸建ての住宅の地震に対する備えとして、

- ①各家庭での備蓄品の準備
- ②家屋内の家具類転倒防止器具の設置促進
- ③家族間の安否確認方法の確立

という3つの注目点を軸として、元福岡市消防局のレスキュー隊の小隊長やニューヨーク州救急隊員時代の体験を通じての

- ・避難の際の留意点
- ・家具に挟まれてしまった際の脱出方法
- ・家具は下から重いものを入れておく
- ・頭を防御せずに飛び出さない
- ・帰宅困難者心得10か条

などを現場感覚で講演していただきました。

発災時に慌てず諦めず状況をしっかりと把握する姿勢、備えあれば憂いなしの教訓を体得した1時間でした。

餅つき大会実施模様

染井野三丁目として11年ぶりとなる餅つき大会が、12月1日、しらかし公園で開催されました。当日は穏やかな天候に恵まれ、200名近くの方に足を運んでいただき、餅つき体験、お餅&豚汁の振舞い、駄菓子つかみ取り&ヨリ釣り等、賑やかなお祭りとなりました。

これまでの餅つき大会は、班長さんグループ長さん総出でのバスツアーでしたが、今回は部分的に外部業者の助力を仰ぎ、かかる支援を最小限に抑えた形で開催させて頂きました。

ご近所の皆さまのコミュニケーション活性化の一助に、些かでもお役に立てたのであれば幸いです。

ご協力頂いた皆様に、あつく御礼申し上げます。

